

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 8日

中施策事業名	多文化共生推進事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市在住の外国人住民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市在住の外国人住民に対し、生活に必要な手続きやイベントの情報を提供することで、市及び周辺住民と関わるきっかけを持つことができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明市国際交流協会支援事業 ・外国籍市民施策懇話会の開催及び多文化共生計画の推進 ・外国語版広報の作成・配布 ・シェパトン市との交流事業 ・ポルトガル語通訳の配置及び関係課との調整 ・各課から依頼の翻訳物依頼 ・非常勤一般職員に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
外国語版広報の取得率	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	78	79	80	80	80	80
	実績値	77.8	75.7				
単位	%						
日本語教室の参加者	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	200	300	300	300	300	300
	実績値	290	275				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				15, 377千円	12, 853千円	
	a 事業費合計			8, 286千円	9, 229千円	9, 277千円
	人 件 費	正規職員	人数	1. 2 人	0. 62 人	
			b 金額	7, 091千円	3, 624千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	3 人	3 人	
			金額	6, 099千円	5, 785千円	
		人件費合計			13, 190千円	9, 409千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				15, 377千円	12, 853千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				224 円	187 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	外国語版広報（英語、中国語、ポルトガル語）について、各施設、店舗等で定期的に活用されている。 平成30年4月1日人口ではブラジル人についてベトナム人が2番目に多くなっているの で、ベトナム人への対応が求められる。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	配布場所の拡大をはじめ、区や町内会にもPRし、地域の外国人に活用してもらう。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ベトナム人が増えてきているので、ベトナム語での広報誌の発行を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	外国語版広報の配布場所についてアンケートを実施し、配置場所の検討を行ったが、実際の設置にはいたらなかった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	現在も3言語での発行、今後ベトナム語を検討したい。 国際交流協会の役員増加策や事業の検討は引き続き行う。	

中施策評価書

作成日 平成30年 9月 10日

中施策事業名	区・町内会活動支援事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	区・町内会等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	区・町内会の実情や特性にあった財政支援を受けられ、地区交流拠点の新設、交流機会の充実を図ることが可能となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・区長会・区長連合会 ・区一括交付金・正副区長報酬 ・コミュニティ助成事業 ・集会所改修等補助金（借上事業含む） ・町内会等配布物（回覧・全戸配布） ・地縁団体の登録、変更手続き及び証明書交付 ・土木工事認定委員会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地区交流拠点の年間設置箇所数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	1	1	1	1	1	1
	実績値	1	1				
単位	箇所						
集会所改修等補助の件数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	5	5	5	5	5	5
	実績値	5	13				
単位	箇所						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				91,605千円	78,391千円	
	a 事業費合計			84,514千円	71,961千円	70,138千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	1.2 人	1.1 人	
			b 金 額	7,091千円	6,430千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	0 人	0 人	
			金 額	0千円	0千円	
		人件費合計			7,091千円	6,430千円
② 補助金等（収入）				5,000千円	5,000千円	0千円
③ コスト（①－②）				86,605千円	73,391千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1,260 円	1,068 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度中の集会所改修の要綱改正により、補助対象が小額な工事も対象となったため件数が増加した。 平成28年度に比べると大規模な改修工事は少なく、事業費としては縮小した。 また、区一括交付金も減少したためコストの減へと繋がった。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	地域交流拠点となる地域サロンの新たな立ち上げに係る補助制度があるので、制度が活用しやすいよう案内する。 区一括交付金についてプロジェクトチームを発足し、面積割に対する格差是正に向けて検討する。市民交流センターの職員を中間支援組織の担い手として育てていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	新規サロン事業の立ち上げを補助するため、既に交流拠点を持っている区の人に相談役となってもらい新規サロン事業立ち上げに協力してもらう。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	地域の交流の拠点として市民交流センター立ち上げのために拠点検討委員会を設置した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	二村台や三崎ではサロンが開催され地域の交流の拠点として設置され活用されているので、今後も引き続き各区でサロンの設置に向けて支援をする。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 27日

中施策事業名	L G B T 事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができる		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び職員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	L（レズビアン・女性同性愛者）G（ゲイ・男性同性愛者）B（バイセクシュアル・両性愛者）T（トランスジェンダー・生まれたときの性別にとらわれずに生きたい）その他、多様な性についての理解が進んでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 理解促進研修会、講演会の開催 - 他自治体との意見交換会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
L G B T 理解促進 のための研修会	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	5	6	7	8	9
	実績値	0	6				
	単位	回					
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				0千円	3,282千円	
	a 事業費合計			0千円	476千円	427千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	0 人	0.48 人	
			b 金 額	0千円	2,806千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	0 人	0 人	
			金 額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	2,806千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				0千円	3,282千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				0 円	48 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市の職員や市議会議員、附属機関委員等の研修を開催し、L G B Tに対する理解を深めた。当事者の話を聴けることは貴重であり有意義な研修となっている。平成30年度は職員向け研修3回、民生委員向け研修1回、市民向け研修1回、市教育委員向け研修1回を予定している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	引き続き職員への研修に加え一般市民、民生委員や教職員への研修を行い、L G B Tへの理解をさらに深める。 各申請書等に性別欄の記載の必要のないものについて削除した。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	「ともに生きる宣言」をしたことで豊明市ならではのパートナーシップ宣言ができるよう検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 L G B T理解促進事業	内容、理由、時期等 研修による理解促進のみならず、パレード等対外的にも事業を行いL G B Tに対する理解、寄り添いを深めるため。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 6月 3日

中施策事業名	豊明夏・秋まつり支援事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民、市外の人及び実行委員会		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	豊明市の風物詩である夏まつり及び秋まつりを多くの人に体感してもらうことにより、実行委員としてまつりの企画・運営に携わる人材の増加・育成につながっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明夏まつり実行委員会事務 ・豊明秋まつり実行委員会事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
豊明秋まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	15,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	実績値	20,000	25,000				
単位	人						
豊明夏まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	50,000	52,000	52,000	52,000	52,000	52,000
	実績値	52,000	48,000				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				10, 046千円	10, 007千円	
	a 事業費合計			6, 500千円	6, 500千円	6, 500千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 6 人	0. 6 人	
			b 金額	3, 546千円	3, 507千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			3, 546千円	3, 507千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				10, 046千円	10, 007千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				146 円	146 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	夏まつり、秋まつりの実行委員とも月1度の打合せを行った。 まつりの成功に向けて、夏は地元出身のバンドの出演、秋は毎年変わるテーマに合わせた会場作りで大いに盛り上がった。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	実行委員会が主催の事業であるため、“めざすまちの姿”に沿ったテーマや内容を提案、助言していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き事業を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	月に1度の会議に参加し、助言を行った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	引き続き、事業に関して助言を行う。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 27日

中施策事業名	友好自治体交流事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春
①めざすまちの姿	31 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている		
②大施策	とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす		
③中施策	とよあけの魅力を発信する		
④中施策事業の対象	市民・市民団体等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	上松町・豊根村に市民や団体が訪問することによって交流が生まれ、人々に豊明市の魅力を伝えることができています。友好都市交流事業は、お互いの市民及び職員を派遣・受入交流し、お互いの文化を伝え、学ぶことができています。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊根村との交流事業 ・上松町との交流事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
上松町交流育樹祭 参加者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	40	40	40	40	40	40
	実績値	8	19				
単位	人						
豊根村温泉施設利用 者	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	実績値	1,020	841				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				8,224千円	7,812千円	
	a 事業費合計			3,969千円	3,603千円	4,341千円
	人件費	正規職員	人数	0.72 人	0.72 人	
			b 金額	4,255千円	4,209千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			4,255千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				8,224千円	7,812千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				120 円	114 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	やや改善が必要	△	B
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	上松町植樹祭については参加者が増加したが、平成30年度は、木の見守り期間に入るので実施しない。その代わりに上松町での夏まつりに参加する予定であったが、台風接近により夏まつり自体が中止となってしまった。 豊根村の温泉施設利用は、PR方法を工夫し利用者を伸ばした。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	上松町の参加者は目標よりも少ないが、伸びているので、周知を行い参加者を増やしたい。植樹に変わる交流事業の検討をする。 豊根村の温泉施設利用に加え、芝桜の植え付け作業を行いリピーターとなるようつなげる。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	豊根村の温泉利用者は伸びておらず、PR方法を工夫し利用者の増加に努めたい。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 友好自治体交流事業	内容、理由、時期等 植樹がない年の交流事業として上松町の夏まつりで行われる木馬引き大会への参加を実施する。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	参加人数は増えたが、目標値には届かなかった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	豊根村の温泉利用者は伸びておらず、引き続きPRの方法等を検討する。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 10日

中施策事業名	市民活動支援事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春

①めざすまちの姿	34 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている
②大施策	若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める
③中施策	世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくる
④中施策事業の対象	市内地域社会活動団体に所属している人
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内各団体が市に帰属することなく、自立し相互に支え合いながら地域活動の一角を担っている。また、市民活動の拠点となる市民交流センターを立ち上げ活動の中心の場所となるよう検討委員会を開催している。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	協働推進委員会開催、協働推進計画推進・地域社会活動の活動拠点関係・市民活動保険、アダプトプログラム推進・市民提案型まちづくり事業交付金・コミュニティ提案型まちづくり事業交付金・協働推進担当職員関係・NPOインターン研修・市民活動室の運営、管理、情報誌の発行、サイト運営、備品、公用車貸出・市民協働講座の開催

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民提案型交付金の採択事業数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	13	13	13	13	13	13
	実績値	10	9				
単位	事業						
パソコン活用講座の参加者数（パソコン持込みも含む）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	60	60	60	60	60	60
	実績値	54	47				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				11,781千円	11,192千円	
	a 事業費合計			2,740千円	2,833千円	4,180千円
	人 件 費	正規職員	人数	1.53 人	1.43 人	
			b 金額	9,041千円	8,359千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			9,041千円	8,359千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				11,781千円	11,192千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				171 円	163 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市民活動保険の利用が多く保険料が高かったため平成30年度の予算を増額した。 市民提案型事業は新規での提案型事業を広く募集するためビギナー・ヤングコースの事業費を増やした。 パソコン活用講座については毎年一定数の利用がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成30年11月開設予定の市民交流センターのスムーズな運用開始に向けて起こりうる問題などの洗い出しが必要とされる。 また、毎年夏まつりの時期には各地区より備品貸出の申請が多数出て来て抽選となってしまうので、備品の充実を図りたい。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	備品の充実を図るため活用できる補助金を探し、備品の購入を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	パソコン活用講座は毎年ある程度の需要があり、参加者数が増えなくても実施する必要があると思われるが実施方法については検討が必要。市民交流センター開設後は市民交流センター事業として実施してもらう。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	市民交流センターへ事業移設できるものは引継ぎ、市民協働課としては新しい事業に取り組めるよう体制を整える。	

中施策評価書

作成日 平成30年 9月 10日

中施策事業名	男女共同参画推進事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	馬場 千春

①めざすまちの姿	36 女性が職場や地域で活躍し続けている
②大施策	女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる
③中施策	職場や地域において女性の活躍の場を増やす
④中施策事業の対象	市内在住・在勤の女性
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	女性の社会生活活動やグループ活動への参加のきっかけづくりや子育て中の女性が自分のために使える時間（学習時間）の提供を目的とした講座を実施することで、様々な年代の女性が、自分らしい生き方を選択できる第一歩となっている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 男女共同参画懇話会の開催及び施策の企画推進 - 男女共同参画講座の企画及び開催 - 男女共同参画フェスタの開催 - 男女共同参画推進担当職員に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
講座参加満足度（アンケート調査）	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	97	97	98	98	98	100
	実績値	82	85				
単位	%						
男女共同参画フェスタ参加者	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	300	200	300	300	300	300
	実績値	170	105				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				5, 099千円	4, 577千円	
	a 事業費合計			844千円	953千円	1, 242千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 72 人	0. 62 人	
			b 金額	4, 255千円	3, 624千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			4, 255千円	3, 624千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				5, 099千円	4, 577千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				74 円	67 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	女性のための学習参加型支援講座（託児付）は、身近な内容の講座で受講者にも好評で託児も継続して欲しいとの声もあったが、参加者の年齢層が上がってきているので、若年層も取り込めるような内容の講座も企画していきたい。 平成30年度予算は男女共同参画フェスタのイベント料を充実させたため増額となった。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	男女共同参画フェスタを平成31年1月にLGBTの劇を取り入れて行うこととしたので、積極的に周知し参加者を増やしたい。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	講座の参加者満足度が100%を得ることができたので、これを落とさないよう、テーマと内容が充実した講座を企画する。 男女共同参画フェスは早い時期から周知を徹底し、参加者数を増やす。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 男女共同参画フェスタ事業	内容、理由、時期等 平成31年1月までにLGBTの研修が数回あるので、その際にフェスタの周知ができると参加者が増える。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	男女共同参画フェスタは選挙により会場と開催日を変更したので、参加者が激減した。今年度は周知期間も長くあるので、各方面へ周知し、充実した内容で参加者を募りたい。 女性のための学習参加型支援講座は、参加者も定員より多く、満足度も高いので、引き続き市民の興味のあるテーマを探し継続していく。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	女性のための学習参加型支援講座は、今後も充実した講座となるようテーマ研究を続ける。参加者からもアンケートを取り、興味のある講座について開催できるよう検討する。	